

総合心療センター 精神科

センター長 戎正司

【診療体制】

2023 年もコロナ禍で年が明け、その対応に追われる状況が続きましたが、5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類に変更され、感染対策について各医療機関や個人の判断で行うこととなり、マスコミのニュースに取り上げられることは減っていきました。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻は 2 年目に突入り収束する気配はなく、イスラエルによるガザ地区への攻撃が重なり世界情勢は不安定になりました。国内に目を向けると、物価が上がるのに賃金が上がらず国民生活は苦しくなるのに、裏金問題などの政治と金の問題で政界は混沌としてきて多くの国民が我が国の現状への不満と将来への不安を感じる閉塞感が世の中に充満しました。

そんな中、我が精神科は、高知赤十字病院救命救急センターより山下高明先生が、また、新しい精神科専門医制度による当科では初めての専攻医として小松大祐先生が高知大学から来られ、閉塞感が少し改善し、精神科に明るい雰囲気をもたらしてくれました。

病棟の診療体制では、コロナ対策による影響で病床稼働率の低下は徐々に改善し、スタッフ一丸となって多職種によるチーム医療を実践し、コロナ対策をしながら、クロザピンによる治療抵抗性統合失調症の治療や電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療など、専門性の高い治療を推進することができました。

外来の診療体制でも、多職種によるチーム医療を推進し、様々な問題を抱えた外来の患者さんに対応しながら病棟と連携して、コロナの影響下での難しいベッドコントロールがなんとかできたと思います。

2024 年も引き続き、一方的な情報伝達ではなく、相手の気持ちを想像し相互交流するコミュニケーションを大切にして、質の高い価値のある精神科チーム医療を多職種連携して推進していきたいと思います。